

## “比～大三倍”について

伊 井 健 一 郎

### はじめに

“扩建以後的広場比原来大三倍，可以容纳幾十万人。”この一文を台湾から関西に来ていた留学生に訳させた：「……広場はもとの3倍になって」，「…は前と比べて3倍となり」。十中八九の学生は，同じ理解であった。

今春，台湾で，同じ質問をした。日本語の堪能な，教師歴20年という台北の旅行社の役員だった。その受けとり方は，全く同様である。

85年の学会で，北京から来日した馬真氏（北京大学）にたずねると，即座に「4倍の大きさになった」と答えた。張悦さん（中央人民放送局アナウンサー）も同じ回答だった。

筆者の理解では，元のものに3倍同等の量が加わったのだから，4倍の数量になるべきである。留学生たちも，いくつかの例文をあげて説明すると，納得していた。しかし即座にはそのように理解できない，という。問題は，恐らく大陸と台湾という地理的ちがいではあるまい。同じ言葉について，なぜ同一民族でこのような理解の不一致が生じるのか。この問題はここ数年間，脳裏から離れない。若干の例文をあげて，現時点における筆者の見方を述べたい。

### 1. 等倍のもの：是，為，相当，等于

(1)九是三的三倍。(9 = 3 × 3) (「現代漢語八百詞」)

(2)美国有兩億多一点人口，……。人口是我国的五分之一，耕地面積却是我国

- 的二倍。(面積はわが国の2倍である) (「中学生」'80. 5 p. 8)
- (3) 茶の産量が去年的四倍。(去年の4倍となる) (「現代日語語法手冊」)
- (4) 今年の総産値預計可達20多億元，為1978年的兩倍多。(78年の2倍余りである) (「人民日報」'80. 11. 23)
- (5) 1976年全県糧食畝産接近4斤，総産相当解放初期的四倍，比文化大革命前的1965年翻了一番。(総生産は解放初期の4倍に相当し，……65年の倍になった) (「華主席在湖南」p. 206)
- (6) 發電廠裝機二千五百万千瓦，等于我国目前已建成的最大水電站——劉家峽水電站的二十倍，比目前正在建設的世界最大水電站——巴西，巴拉圭合營的依泰普水電站裝機一千二百六十万千瓦大一倍。(20倍に等しく，……1,260万kwの倍の大きさである)
- これらのセンテンスは，A is Bであり，“～となる，～に相当する，～に等しい”などの意味である。

## 2. 形容詞：大，多，高，快，重など

次のいくつかのセンテンスは，形容詞に倍数あるいは数量詞のつく例である。

- (7) 他比我大三歲。(三つ年上だ) (「ラジオ中国語講座」'80. 5. 7)
- (8) 比哈爾濱大兩倍的城市。(a city three times the size of Harbin.)
- (9) 這一間比原來的幾乎大一半。(ほとんど50%ほど大きい) (「八百詞」)
- (10) 地球的大氣壓每平方厘米約1公斤，金星的大氣壓要大九十倍。(大氣壓はその90倍の大きさであらう。) (「中学生」'80. 3 p. 51, 注)(?)
- (注)金星の大氣壓は，實際にいくらかが，気になった。一般には，60-100 ATM，90±15気圧。正確な数字は出せないが，参考までに示すと如下：
1. 地球海面の約100倍に等しい。(講談社「天文用語ハンドブック」)
  2. 100気圧 (地人書館「天文の基礎教室」)
  3. はっきりしない，60ないし100気圧 (誠堂新光社「宇宙ってこんなも

1987年12月 伊井健一郎：“比～大三倍”について

の，天体の？50問）

4. 30-100気圧（朝倉書房「宇宙科学入門」）

- (11)男先生の数目比女先生多兩倍。（3倍である）（「中国語教科書」下 p. 497）
- (12)同音詞在日語中和在漢語中的比例是3：1，日本比中国多兩倍。（3倍である）（「語文現代化」3，語文風雲）
- (13)二百五十比一百多了一倍半。（250は100の2.5倍である）（「八百詞」）
- (14)体重比去年多了兩公斤呢。（2キロふえた）（NHK「テレビ中国語講座」'81. 3. 18）
- (15)他們的東西比咱們這兒還多上三倍。（あの人たちの物は，我々の所に比べて3倍も多い）（岩波の「中国語辞典」p. 469）  
（比べて3倍にのぼっている。同上「辞典」p. 146）
- (16)由于陰雨連綿，雨傘的銷售額比去年同期高出三倍。（昨年同期の4倍になった）（「人民日報」'80. 8. 8）
- (17)東北輕合金加工廠，宝鷄有色金屬加工廠，洛陽銅加工廠的產品，由于質量好，品種對路，銷售量比同類企業的產品高4倍至10多倍。（5倍から10余倍である）。（「人民日報」'80. 12. 2）
- (18)比外邊兒高着一倍。（外より倍も高い）（岩波「中国語辞典」）
- (19)這種快速電梯，運行速度比一般電梯快一倍左右。（運転速度が倍以上だ）（「人民日報」'80. 9. 19）
- (20)我看要比五千斤重一倍，有一万斤。（2,500kgの倍，5,000kgあると思う）。（「基礎漢語」p. 173）

例文(7)，(9)，(14)など数量詞をともなうものは，明白である。それ以外のセンテンスは，“倍”数がついていて，もとの数に1倍を加える倍数になる。このような倍数は，“××倍大きくなった”と理解でき，“××倍の大きさになった”ではない。(19)の“快一倍”は，1倍はやくなったということ，すなわち2倍の速さになったことである。その他の例も同様に理解できる。

(8)と同様な例文：中国的面積比日本大二十五倍。（26倍の大きさだ）（「テレビ中国語講座」'86. 2月）。“大兩倍”というと，“2倍分だけ大きい”つ

まり「3倍の大きさ」ということで、「大きさが2倍だ」という意味ではない。一般には、このように解釈される。

(19)に関連して、別の例文をみよう：毎小時可打21,450字，則比目前漢字打字最高記録時速3,500字快6倍，比英文打字最高記録時速8,580字，也快2倍強。（中国語文雜誌社「拼音文字和漢字的比較」，1954年） $3,500 \times 6 = 21,000$ ， $8,580 \times 2 = 17,160$ 。この数字からは、6倍の速さ、2倍強の速さとしかよみとれない。とすると、例(19)のような倍数をプラスした言い方ではない。だからこの例文は必ずしも正しい用法とは思えない。

概数を例とする場合は、倍数どおりに理解されよう：如果說當時機器翻譯速度與人相等，即末，現在就比人大約快一萬五千倍了。（「語文現代化」'83. 2号 p. 38）これは恐らく、厳密に15,001倍という意味にはとるまい。大体15,000倍であろうとする。

日本着手研製五倍于音速的極超音速客機（「光明日報」'86. 7. 21）。これは“時速為音速的五倍”と同様、音速の5倍のスピードのことである。ところが次の例はどうか。一分鐘即為一百二十四個字，比鍵盤輸入每分鐘四十至四十八個字快約三倍。（「光明日報」'86. 7. 29）124と40、48を比較したとき、3倍のはやさとしか理解できない。（?）

例(18)は高着だが、日本平均每個家庭把收入的約20%存入銀行，比美国家庭的平均儲蓄率高2倍。（「世界知識」'85. 3期）高一倍の表現があるから、恐らく3倍の高さということだろう。

高出～倍の例もある。該校將每個學生每學期二元五角的标准學費擅自提高為十元，整整高出國家規定的三倍。（「光明日報」'86. 6. 27）2.5元から10元になったのだから、4倍に高まったと理解できる。今年的價格比去年高出10%。（「ビジネス中国語500」外文出版社，'83, p. 96）。同様に、その百分率、倍数がプラスされたことである。

### 3. 動詞+倍数等

この例は多くて、枚挙にいとまがない。その意味は、その“倍”数を加えることである。

- (21)産量比上個月增加百分之十。(10%増である) (「中国語文」'79. 3)
- (22)1920年全国人口總數為5,500万, 1975年的第十二次人口普查, 總人口約為11,000万。55年来, 日本總人口增加了一倍。(倍にふえた) (「人民日報」'80. 11. 27)
- (23)這次預算中的四項重点費用都有較大幅度增加, 如能源对策費增加 17.3%, ……防衛費增加7.61%。(エネルギー対策費の17.3%増) (「人民日報」'81. 3. 9)
- (24)這兒解放前小麦每畝產量只有四十斤, 現在每畝產量差不多四百四十斤, 現在比解放前增加了十倍。現在的畝產量是解放前的十一倍。(解放前に比べ10倍ふえ, ……解放前の11倍である)。(「基礎漢語」p. 166)ここでは具体的に, その数字を出して説明している。
- (25)三年平均每人每年增加60元。……平均每戶職工家庭收入, 由186元增加到395元, 增長一倍多。(倍余りにふえた)。(「人民日報」'81. 2. 7)
- (26)兩国貿易額1972年只約10億美元, 78年增至50億美元, 6年間增長了四倍。(6年間で5倍にふえた) (「世界知識」'79. 15期) 10→50。
- (27)雜交水稻普遍比常規水稻增產兩三成, 高的一季畝產一千三, 四百斤。(2・3割の増産) (「華主席在湖南」)
- (28)糧食增產一・四倍, 棉花增產四・七倍。(食糧は2.4倍に, 綿花は5.7倍にふえた) (「現代日語語法手冊」p. 39)
- (29)1976年11月份比10月份產值猛增二点三倍。(10月の3.3倍に急増) (「華主席在湖南」)
- (30)上半年消費物價折合年率上漲13.2% (年率に換算して113.2%に騰貴した。)
- (31)加兩成出售。(2割かけて売る) (「日語学習」1, p. 53)

- (32) 他們的生産比上月提高了百分之八十。(先月比80%アップした) (「中国語教科書」下 p. 497)
- (33) 如果装上銀屏放大鏡，可以把画面面積擴大一点七倍。(2.7倍に拡大できる) (「人民日報」'81. 2. 5)
- (34) 在顯微鏡下放大一千倍。(1,000倍に拡大する) (「中日大辞典」 p. 421)
- (35) 1976年糧食畝産一千三百多斤，比文化大革命的1965年翻了一番多，比解放初期增長了三倍。(65年の倍余りになり，解放初期の4倍にふえた) (「華主席在湖南」)
- (36) 1965年，八隊的鴨梨産量是比去年翻了五番。第二年，全大隊的梨産量由兩万多斤上昇到二十多万斤。(昨年の6倍にふえた) (「中学生」'80. 5)
- (37) 全国現有公路超解放初期十二倍多。(13倍余りになった) (「人民日報」'80. 5. 20)
- (38) 日本是施用化肥最多的国家，約超過欧美3—4倍。(欧米の4—5倍である) (「世界經濟」'79. 10 p. 45)
- (39) 拋調查，日本的噪音比西方工業国家都大，超過了美国，英国和西德等西方国家一倍。(西側諸国の倍以上である) (「人民日報」'80. 8. 1) 「中日大辞典」によると，(36)のセンテンスは，“5倍になった”と理解する(p. 406)。しかし，“翻了一番”は，倍にふえた，2倍になったということである。同「辞典」は，“翻”に対して，“倍增”“倍にふえる”といった説明をしている。“翻了五番”と“翻了一番”についての解釈は同じでない。数詞の一と五四三などについての見方，用法が同じでないのか？

もとの数を2とすれば，翻一番は $2 \times 2 = 4$ ，つまり $2^2$ ，また翻兩翻は $4 \times 2 = 8$ ，つまり $2^3$ ，さらに翻三番は $8 \times 2 = 16$ ，つまり $2^4$ ……と一番ごとに2を乗じていく。……“一番，兩翻……”が“一倍，兩倍……”とおなじ意味をあらわすこともある(興水優『中国語基本語ノート』，大修館書店，1980年，p. 268)ので，注意する必要がある。

「翻兩番」が4倍とは，胡耀邦(Hú Yaobāng)報告として，新聞ダネにもなったことがある。(「読売新聞」'82. 9. 3)

1987年12月 伊井健一郎：“比～大三倍”について

(40)今年頭四個月合作社供給的豆餅超過去年全年供應量的兩倍半。(一年間の供給量の2倍半をこしている)〔「語法修辭講話」p. 71〕

もしも“的”があれば、2.5対1である。しかしこの“的”は使用まちがいの可能性もある。そうすれば3.5対1になる。(つまり3倍半になっている)。このように、一定の数を加えるとき、動詞として役割を果すなら、まるまるその倍数を加えることを意味する。例えば、

(41)增加了一倍。(2倍になる)〔「現代中日辞典」〕

だから誤解することはめったにない。しかもその倍数になったときは、“增加為、增長到”等としてよく使う。(41)の例文：住宅面積可比原来增加一倍左右，(「ラジオ中国語講座」'87. 8. 22)は、“2倍前後にふえ”と訳文にもある。次は試験問題：0.625を100倍ふやしたら62.5ではない，ということ。把0.625增加100倍是62.5(×)〔「人民教育」'85. 12, '86. 1〕

(32)に関して、最近我們創造了一種新式車刀，工作效率比以前提高了十倍，産品的質量也提高了很多。(さねとうけいしゅう「近代日中交渉史話」春秋社，1973年)この日本語訳は、“まえより10倍も高まり”とある。具体的数字がなく確認できないが、多分11倍でなく、10倍であろうと予想される。(34)と類似しているようだ。

#### 4. “到”のつく文

(42)糧食総産量由文化大革命前的五百万斤上昇到現在的七百三十万斤。水利設施由原来的一百二十七处增加到二百一十多处，灌溉面積擴大到百分之八十以上。(「華主席在湖南」)

(43)從1949年到1979年，各類機械設備由四十多台增加到四千多台。(「上海港」'80. 7)

(44)1973年初，沙特政府獲得阿美石油公司25%的股份，1974年又提高到60%。(サウジ政府は、アラムコの株25%を取得し、74年にまた60%まで高めた)〔「世界經濟」'79. 10 p. 76〕

3から6にふえることを、ある人は、“増加兩倍”というが、こうした言方は誤解をまねきやすい。“増加一倍”あるいは“增加到兩倍”というべきである。(丁声樹：「現代漢語語法講話」p. 172)

(45)1872年全国鐵路只有17.96英里，到1893年秋發展到2039.6英里，增加了一百十二倍。(113倍の長さになった。)(上海辭書出版社『日本』p. 58)

(46)這一階段內的汽車產量從1956年的十一萬輛膨脹到1964年的一百七十萬輛，八年內汽車增加十四倍以上。(15倍以上にふえた)(同上書 p. 97)

(47)如1955年度政府財政投資為8.3億美元，1972年增至208億美元，增加了25倍。(26倍にふえた。)(同上書 p. 83)

(45)の“增加了112倍”は、具体的に割り算をしてみると、 $2039.6 \div 17.96 = 113.56$ 。すなわち113倍の長さである。同様に(46)の“増加14倍以上”とは、15倍以上になったことをさす。 $170万 \div 11万 = 15.45$ 。(47)の“增加了25倍”は、26倍になったことだが、 $208億 \div 8.3億 = 25.3$ 。これはセンテンスの数字とは異なる。ここは当然“增加到25倍”あるいは“增加了24倍”とすべきであろう。

(48)中学生の人数は解放前の××倍，小学生はその××に増えました。

(48')中学生比解放前增加××倍，小学生增加××倍。(「日漢貿易會話」，商務印書館，1979，p. 61)

(49)総収穫高は×××トンに増えました。

(49')総産量增加到×××吨。

(48)(49)と(48')(49')の二つのセンテンスでは、具体的数字が出されていない。だがセンテンスからは、(48)と(48')の日文、中文は同一の倍数を用いたものと判断できる。だがこのような言い方は不適當ではなからうか？ ある倍数までふえたことを表すためには、(42)から(46)までと(49')のように、一般的には“增長到”“増加為”などの語を用いなければならない。

「到」をにおいて数字がくれば、この数字は増減した結果を示す。(大原，伊地智「中国語表現文型」，江南書院，1956年，p. 150)

(50)那規模將比現在擴大十倍。(1 : 11)



1987年12月 伊井健一郎：“比～大三倍”について

(5)従一九三七年到一九四八年，物価上昇了六百万倍。

ここで、(50)，(51)が言いたいのは、10倍ひろげられるとか600万倍上昇したとか、結果を示したことだと思われる。もしもそのようなら，“拡大到”“上昇到”あるいは“拡大為”“上昇為”等と改めるべきだろう。もっとも、中国人の言い方としては，“拡大到”とか“上昇到”とかは言わない，というネイティブもいるのだが。

もしも×倍になる（ふえる）場合は，増加到×倍とできる。汽車的産量増加到（達到）去年的五倍。（去年の5倍にふえた）といえる。また減少を表すときには，気体的体積減少到 $\frac{1}{3}$ （減少了 $\frac{2}{3}$ ）。（ $\frac{1}{3}$ にへった）。（蔣永順「談日語中倍数的訳法」、『日語学習』'84. 1期）。このようにして，その量までふえるとか，へるとかを表すのである。

## 5. 日本語の人一倍，三倍増等

人一倍は，その人の熱心さやなまけぶりなどが普通の人の2倍であること，と「国語辞典」は書く。「私は旅が人一倍好きだが，夏というと，ああ，汗が出る。…」（岡田喜秋「私の文章作法」，ぎょうせい，昭和53年，p. 216）

人一倍困難な作業であったが（波多野完治「生涯教育新講」p. 39），などと，あげればきりがなかろう。これは恐らく次の中国語に当たろうか。雖然写的時候可以省点時間，然而学的時候須得加上一倍的困難。（「文字歴史観与革命論」p. 289）

わたくしはその意味において，その日の感激を少なくとも人の二倍には受け取ったと考える。（「倉石武四郎著作集」第一巻，くろしお出版，1981，p. 284）この表現は，いかにも中国語的なものを感じられる。

“プロ野球を10倍楽しく”これは映画のタイトルである。“速聴で頭の回転は5倍はやくなる”。これは書名である。二例とも，具体的な数字による説明はない。5とか10とかの概数を使うことによって，日本語の概念をより強調するために用いられたのであろう。

(你)会找到比我勝強十倍的好青年。(藤堂明保「中国文法の研究」p. 111) 10倍もしっかりしたよい青年で、(+)10倍という概念ではなさそうである。

次に3倍増をみよう。カルチャーブーム、4年間で3倍増とある。「毎日新聞」'87. 7. 8) 都道府県レベルでの取り組みは、3倍近くに増えている。また住宅金融公庫は、住宅債権募集枠を昨年度の約3倍増の13,000とした(「読売新聞」'83. 5. 31)。公庫に確認してみると、82年度は4,550人だから、3倍になったことを3倍増とした。

現在日産30万個のシートコイルは、83年には100万個と3倍増の体制に移行(光文社「十年後」p. 137) 3倍にふえることである。

今世紀末までに工農業生産総額の四倍増を達成する(「北京週報」'83. 7. 26) (+) 3倍、つまり4倍までふやすことである。「翻両番」という中国語表現の日本語訳である。“当初50億円程度であった文化庁予算が、昭和50年度には212億円と4倍強の増加を示し(安達健二「文化庁事始」東京書籍、昭和53年、p. 224) 50→212は、4倍以上になったということである。

59年度現在、海外で日本語を学んでいる人は、75か国で約58万人に上る。10年前には、68か国、77,000人ほどだったから、7.5倍の急増ぶりだ(「読売新聞」社説 '85. 12. 4) 実数を計算すると、7.53になる。7.5倍強に、急激に増加したことを示している。

ところが「文化庁事始」(p. 250)の“145億5,600万になり、……43年度の50億5,400億に比し、5年間で3倍近く伸びた”との表現は、まぎらわしい。50→145、3倍に近い状態まで伸びたわけだから、3倍近くに伸びたとすべきであろう。“放送時間も完成後には1日33時間に達し、現在の1日12時間から3倍近くふえる”(「北京週報」'83. 6. 21) ことになるというが、これも12→33。3倍近くにふえる、ととるべきであろう。さもないと3倍近くをプラスしないとならないからである。

～倍増の表現は、中国語の増至、増為、増加到のことである。～倍ふえるは、増加、増産、増長などである。そして“倍”は、減少のときには使えないはずだが、“減少一倍”などと誤用されるむきもある。“ただ増加のみに使

1987年12月 伊井健一郎：“比～大三倍”について

える”（「光明日報’86. 1. 7）よう，規範化が求められる。日，中両国語とも，注意，検討の必要な点である。

## 6. A比B大兩倍

呂叔湘（Lǚ Shūxiāng）は『中国語法学習』（大原，伊地智訳）で述べている：A比B大一倍  $A : B = 2 : 1$ 。A比B大一百倍  $A : B = 100 : 1$ 。しかも“大兩倍”は， $3 : 1$ と $2 : 1$ という2種類の解釈が成り立つ。“A比B大兩倍”は，“大一倍”とは同じ意味だと言いかえることができる。

『中日大辞典』は，“大兩倍”を「3倍の大きさがある」，「倍の大きさである，大きさは2倍である」という。この解釈には，上記呂叔湘の解釈と共通点がある。

(52) 学生要是增加兩倍就収不容了。（3倍になったら～）

(53) 產量比去年增加了五倍。（6倍になった）

(54) 到了明年日用品一定会漲一倍。（2倍になる）

(52)～(54)の例文は，岩波の『中国語辞典』の例文である。3倍になった，6倍になった，2倍になると示している。

大学書林の『中国語辞典』は，どのように解釈しているか？ “大一倍” 1倍大きい（2倍の大きさ）。“大兩倍” ②2倍大きい（3倍）。①2倍の大きさ。有兩倍大は，2倍の大きさがある。大一百倍は，100倍の大きさ。この辞典も『中日大辞典』と同様，2種の解釈をしている。ところが“増加”の場合は，次のように明確なちがいがあがる。“増加兩倍” 2倍を増す（3倍になる），“増加一百倍” 100倍増す（101倍になる）。

以上2冊の辞典は，“大兩倍”に対して，2倍の大きさ，という解釈を出した。筆者が最初に提起した問題は，ここにあった。

(55) 九比三大兩倍。  $\frac{9-3}{3} = 2$ （「八百詞」）

倉石武四郎『ローマ字中国語法』（岩波書店，1969）は述べている：一倍というのは日本語の2倍に相当する，だからもしも兩倍といえは，元の数字

にその2倍を加えて、3倍になるのだ。

ここから、われわれには“大兩倍”を“大其程度有三倍”ともいうことができる。岩波の『中国語辞典』は、“一倍”を特に(量)2倍、倍と提起している。

趙之任(Zhào Yuánrèn)は、『漢語口語語法』(1979, p. 275)で、倍と番を整理している。

一倍 =  $\times 2$       一番 =  $\times 2 \times 2^1$

兩倍 =  $\times 2$       兩番 =  $\times 2 \times 2^2$

三倍 =  $\times 3$       三番 =  $\times 3 \times 2^3$

(今の意味)(昔の意味)

呂叔湘は、この結論にもとづいて述べた：こうした表現方法は、われわれの言語の正確さを妨げている。A比B長三尺(A比B三尺長)からみると、“A比B大一倍”が指す2:1は正しいものである。だから“A比B大兩倍”は、当然3:1のみを表すべきである。A:B=100:1は、“A有B的100倍大”あるいは“A的大小是B的一百倍”。というべきである。“增加兩倍”は3:1、“增加一百倍”は、101:1等というべきである。

### 結びにかえて

動詞のセンテンスは、解釈上混乱現象は起こりにくい。だが形容詞のセンテンスは、前述の「辞典」の解釈のような現象が起こりやすい。“比原来大 $\times\times$ 倍”のようなセンテンスは、実際の数字として現れるもので、明確な解釈と定義が必要である。

これまでに考えてきた例文の中で、その倍数のまま数量を表すものは、次のいくつかの例だった。

快	15,000倍	拡大	10倍
放大	1,000倍	上昇了	600万倍
提高了	10倍		

1987年12月 伊井健一郎：“比～大三倍”について

この中で、提高了10倍は、11倍に高める、つりあげるとも理解でき、拡大10倍も11倍に拡大すると理解できよう。また放大1,000倍を1,001倍に大きくする、という解釈が出ることも予想される。例文(17)は高4倍至10多倍とあり、5倍から10余倍としたが、多がついたことによる表現であり、高10倍なら11倍とするとところである。

“快、放大、上昇了”などは、いずれも“はやくなる、大きくする、上昇する”という動詞で、そのあとに倍数をおく。ここでは、とりわけ大きな概数をおいている。「倍数が大まかになるほど、増加の部分と結果の混同に気づきにくくなるのか」と、興水氏も述べる（前掲書）。その場合に、等量倍の概念が生じるのではなからうか。

また“A比B大三倍”については、A有B的3倍大という受けとり方をしている。“大きくなる”ということではなく、3倍の“大きさ”という直感的な受けとめ方がされているのではなからうか。そこから厳密であるべき数字の混乱が生まれる。比～長三倍は、英語で four times as long as ～ という。（「新英漢詞典」上海人民出版社，1975年，p. 1462）

小稿は、筆者が気にかかりながら集めていた例文を並べて、ささやかな問題を提起したにすぎない。語法面の学習不足により、その観点には、間違いや不適切な点があり得る。先学の御批判と御指導をお願いします。

#### <参考文献>

1. 北京大学「現代漢語」新華書店，1962年。
2. 丁声樹等「現代漢語語法講話」商務印書館，1963年。
3. 趙元任「漢語口語語法」商務印書館，1979年。
4. 胡裕樹主編「現代漢語參考資料」上海教育出版社，1981年。
5. 呂叔湘「中国文法要略」商務印書館，1982年。
6. 全国語法和語法教学討論會業務組「教学語法論集」人民教育出版社，1982年。

（なお、簡体字は、すべて日本の漢字に直した。）（1987. 9. 1）